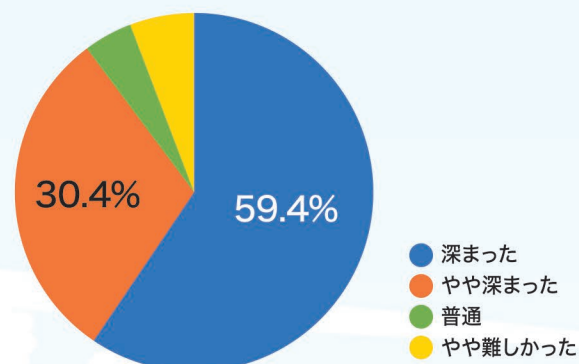


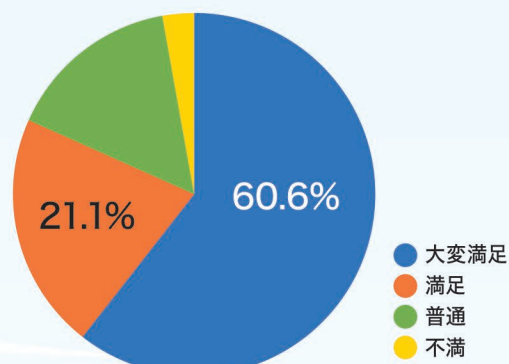
デニー知事トークキャラバンin静岡アンケート

トークキャラバンに参加した約90%の方々が
辺野古新基地建設問題などについて理解が深まったと回答しました。

「辺野古新基地建設問題や沖縄県の
基地負担の現状」について理解は深まりましたか？



今回のトークキャラバンの内容はいかがでしたか？



参加者の声

- ・沖縄の基地問題について生の声を聞けて何が問題なのかよくわかった。
- ・土木工学の話は新聞よりわかりやすかった。
- ・静岡のリニア問題と同じと感じる面があった。
- ・メディアで知識は得ているが生の声は心に届く。
- ・基地の近くで生まれ育ち不条理を経験している。語り継ぐ必要を感じた。
- ・沖縄県民の苦悩や問題について静岡県民である私たちも考えるきっかけになった。
- ・沖縄の問題は日本全体の問題のほず。一人一人がもっと考える必要がある。
- ・伝えて理解を広め深める地道な活動と姿勢に感銘を受けた。

QAB番組「CATCHY」追跡エモリ タイアップ企画が放送されました！

沖縄の基地問題について県外の皆さんにも『自分ごと』として考えてほしいとの
思いからはじめた玉城デニー知事のトークキャラバン。静岡開催の様子がCATCHYで放送されました。

放送日 令和7年2月20日(木) 出演 儀間真幸、東江万那美



会場の方々の熱気がすごくて、質問もたくさん来ました。今回、若い世代も登壇されていましたが、改めて、我々世代が発信することも大事だし、それを若い方にいかに届けて、若い方がどんな行動を起こすのかがこれから大事と感じました。



～普天間・辺野古新基地建設問題の解決に向けて～

デニー沖縄県知事トークキャラバンin静岡

玉城デニー沖縄県知事が、トークキャラバンで静岡にやってきます！

日米両政府による普天間飛行場の返還合意から28年、
市街地の中心にある基地の危険性はいまだに残り続けています。
なぜ返還されないのか？なぜ米軍基地が沖縄に集中しているのか？
基地問題を抱え続ける沖縄の「今とこれから」について、デニー知事と一緒に考えてみませんか？



沖縄県公式Youtubeにて、
トークキャラバンのアーカイブ視聴ができます。
QRコードを読み取って下さい。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

https://www.youtube.com/watch?v=3KKJtN8_9W4

会場 静岡県男女共同参画センターあざれあ
6階大ホール(静岡県 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1)

玉城デニー沖縄県知事による基調講演



沖縄県うるま市(旧与那城村)出身
1991年頃 ラジオパーソナリティ/タレント
2002年9月 沖縄市議会議員選初当選(1期)
2009年8月 衆議院議員選初当選(4期)
2018年9月～ 沖縄県知事(現在2期目)

プログラム

- 【第1部】玉城 デニー沖縄県知事基調講演
- 【第2部】鎌尾 彰司 日本大学准教授基調講演
- 【第3部】パネルディスカッション

当日は会場からの質疑応答も行います。
基地問題についての率直な疑問をお寄せください。



鎌尾 彰司(日本大学准教授)



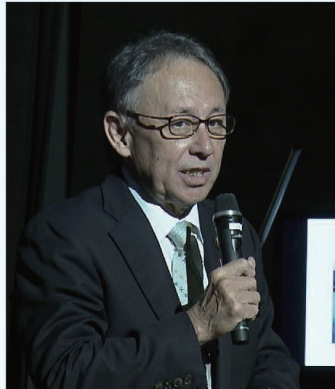
武田 真一(フリーアナウンサー)



伊與田 彩夏(上智大学大学生)

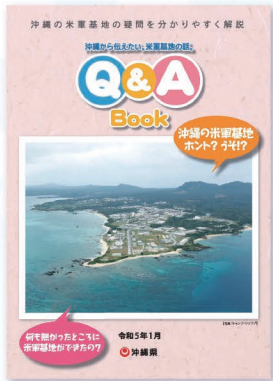
主催/ 沖縄県

玉城デニー知事による発言要旨



玉城 デニー(沖縄県知事)

こちらをご覧ください！



沖縄から伝えたい。
米軍基地の話。
Q&A Book



- ・沖縄にある米軍専用施設面積を合計すると約1万8,483ヘクタールとなり、これを静岡に当てはめて例えると、静岡の茶畑面積約1万4,500ヘクタールよりも大きいものとなる。国土面積のわずか0.6%しかない沖縄に、日本全体の米軍専用施設面積の70.3%が集中している。
- ・沖縄が本土復帰してから昨年末までの累計で、米軍人・軍属等による刑法犯の検挙件数は6,308件。暫定値では、昨年は過去20年で最多となっていた2023年を超える73件発生している。
- ・昨年は、米軍人による性的暴行事件などの発生が立て続けに発覚し、12月には米兵による少女暴行事件に対する抗議と再発防止を求める県民大会が開催され、私も参加してメッセージを出した。
- ・このような中、去る1月8日、昨年11月に海兵隊員による性的暴行事件が発生していたことが新たに発覚した。隊員の教育や再発防止策の実施につなげていくために、私が直接、外務省特命全権大使沖縄担当、沖縄防衛局長に抗議を行うとともに、在沖米海兵隊の司令官との意見交換を行った。
- ・2度とこのような事件が発生しないよう、米軍及び日米両政府に対しては、隊員の教育の徹底、より一層の綱紀の肅正を求めている。事件が起こるたびに、声をさらに強くして発しなければならないという責任もあると思っている。
- ・米軍基地周辺の川や湧き水から製造・使用などが国際的に規制の対象となっている有機フッ素化合物(PFOS等)が、国の暫定指針値を超えて検出されており、地域住民に大きな不安を与えている。
- ・沖縄県が行った調査では、国の暫定指針値は1L当たり50ナノグラムであるのに対し、普天間飛行場周辺の湧き水等においては、1L当たり1,000ナノグラムを超えてPFOS等が検出されている箇所が複数ある。沖縄県としてはこの汚染源を特定するため、米軍基地内の立入調査を求めているが、米軍からの許可が下りない状況。
- ・普天間飛行場は、沖縄本島中部にある宜野湾市のさらにその真ん中にあり、静岡最大のエコパスタジアムの約150個分の面積に相当する。広大な基地が市の真ん中に位置し、市を東西に分断している。
- ・普天間飛行場の危険性除去をめぐる、日米両政府は辺野古への移設を唯一の解決策としているが、沖縄県としては、沖縄の過重な基地負担の軽減につながらないことなどから反対している。
- ・辺野古埋立てに賛成、反対、どちらでもないという、この一つの課題に絞って行われた2019年2月の県民投票では、約72%の方々が辺野古埋立てに反対という明確な民意が示された。
- ・アジア太平洋地域に住む人々が、経済、文化、人材、平和交流など顔が見える交流事業を一つ一つ積み重ねていくこと、平和な関係を対話によって維持をするということが重要だと思っている。
- ・今年は戦後80年の節目の年となることから、沖縄県としては、これまでの歴史を振り返り、先の大戦の犠牲者を追悼するとともに、多くの方々が平和で豊かな沖縄を描いていけるよう、戦後80周年平和祈念事業に取り組んでいきたい。

【総括コメント】

今回のトークキャラバンでは、3名の方に登壇いただき、私もまた皆さんに、ここがポイントです。よってことも含めてお話をしましたけれども、「今日が済んだから今日は終わり」ではありません。ぜひ、今日をまた新しい始まりだと受け止めていただいて、皆さんなりに、何をどう受け取られたかということを周辺の方々とも話し合っていただけたらと思います。

当日の様子



登壇者 発言要旨



鎌尾 彰司
(日本大学准教授)

辺野古の軟弱地盤と基地建設

- ・辺野古基地では、辺野古崎の西側と東側を埋め立ててV字型の滑走路が整備される予定となっている。西側については埋立てがほぼ終わっている段階になるが、問題なのは東側のエリアで、非常に水深が深く軟弱地盤があることが知られている。
- ・2013年東側護岸の当初設計では、地盤改良という言葉はなく、埋立ては5年で終了することになっていたが、その後軟弱地盤がその存在が分かり、地盤改良を要することとなった。
- ・B-27という地点は、海面から海底面まで30mあり、そこから軟弱地盤が60m続いている。海面下90mの地盤改良について、日本最大級の地盤改良船でも70mまでしか改良できないため、残りの20mは軟弱地盤がそのまま残る状況になる。
- ・この付近は、海底地盤を含めて、軟弱地盤や硬い地盤があったりと層が複雑に入り組んでおり、将来にわたって大きな不同沈下が起こる可能性もあるが、B-27では地盤強度の調査が実施されておらず、近くの3地点のデータを使って挙動を設計しており、沈下量と沈下時間が過小評価されている。
- ・専門ではないが、アメリカの環境NGO団体が、この辺野古大浦湾の辺りを、絶滅危惧種含めて数多くの海洋生物がいるホープスポットとして日本で初の指定をしたとのことで、美しい海を守り、住民に安らぎと幸福を与えるようにしてもらえたらと思っている。

「沖縄と本土」両方の視点を併せ持つ者として



武田 真一
(フリーアナウンサー)

- ・2006年から2008年まで2年間NHKの沖縄放送局で勤務していた。その間の思い出は人生の中で最も美しいもので、そのときに知り合った沖縄の人たちとのつながりは今も固く結ばれている。沖縄を故郷のように愛している。
- ・日米同盟を維持するために、これだけの規模の専用施設が国内に必要なのか、そしてその大部分が沖縄に集中していることをどう捉えたらいいのか、そこがまさに今日の議論の焦点だと思う。しかし、こうだと明確に語れる結論を私も未だに持ち得ていない。
- ・物事には、経緯でしか理解できないということがあると思う。さまざまな思惑が絡みあって、紆余曲折を経て至った結論というのは、ときにすっきりとした理屈で説明できないもので、沖縄の基地問題はまさにそういうものだと思っている。
- ・どういう経緯や歴史を辿ってここに至るのか、その視点抜きには、この問題を深く捉えることはできない。
- ・意見が対立すること自体は悪いことでも何でも無い。しかし、同時にそれを対話によって乗り越えるということも忘れてはならない。沖縄県民同士、あるいは沖縄の人と本土の私たちの間で、お互いの考えに耳を傾け合うことができればと思っている。

沖縄の基地問題についての私たち世代のリアル



伊與田 彩夏
(上智大学大学生)

- ・両親が東京出身で、保育園から高校までを那覇で過ごした。進学で上京してからより一層沖縄が大好きになり、新聞学科に所属していることから沖縄のために何かしてみたいという思いで、大学1年生の頃からサスティナブル沖縄という学生団体に所属し、沖縄の歴史や文化、基地問題といった社会課題について発信している。
- ・そのような活動を行う中で、沖縄の基地問題をはじめとする沖縄の社会課題を、若い世代が「自分ごと」として積極的に日常で考えるきっかけが少ないのではないかと感じた。
- ・また、フォロワーからも、基地問題についてまず意見を述べる前に、「関心があまりない」、「そもそもよく分からない」という意見が多くあった。
- ・普天間・辺野古基地新基地建設問題は、日本全体で、また全世代が考えるべき問題だと考えている。ただ、自分自身がそうだったように、沖縄の抱える問題について、そもそもどんな問題なのか、日常で考えるべき問題なのか分かっていない人も若い世代には多いと実感している。
- ・特に若い世代の日常にSNSが欠かせないものになったからこそ、これからも、同世代が自然と沖縄の社会課題について興味を持つきっかけとなるようSNSから発信していきたい。